広報 はちまんたい hachimantai
Aug.2012 No.155
平成24年８月２日発行（毎月第１・３木曜日発行）
〒028-7192 岩手県八幡平市大更第35地割62番地
■ホームページ http://www.city.hachimantai.lg.jp
■発行 岩手県八幡平市 ☎0195-76-2111 FAX0195-75-0469
■編集 企画総務部市長公室
■印刷 株式会社白ゆり

八幡平いにしえの宝

（市内の貴重な文化財や自然などを紹介します）

７月末から８月にかけて紺碧に澄む神秘的な湖面【７月８日撮影】

不動尊が祀られています

八幡平ユースホステル前にある神社

赤沼と赤沼神社

所在地：八幡平・御在所湿原とその周辺

５万分の１の地形図にも通称の「五色沼」で載っていますが、昔から赤沼と呼ばれてきました。褐色だった湖面が、初夏には濁りを帯びた青から鮮やかな青に。やがて、濁りも取れて澄み切ったコバルトブルーになり、初秋には緑色を帯び、秋から冬を経て春までは褐色の、いわゆる“赤沼”になります。冬も凍ることはありません。長年研究を続けている吉田稔氏（岩手大学名誉教授）は、「五色沼」と呼ばれる湖は日本各地にあるが、ひとつの湖が多色に、しかもこれほど顕著に変色する湖は他には無く、世界にも類を見ない、といいます。湖は、直径約45㍍、最大水深13㍍で、湖底はほぼ水平な円筒状です。湖の縁は堤防状に盛り上がり、外から流入する水は全く無く、湖底からの湧水のみで満たされている珍しい湖です。地形や気候のほかに無酸素水であること、湯脈（ゆみゃく）、硫黄鉱床（いおうこうしょう）があることなどが変色のメカニズムを複雑なものにしているようですが、ここだけの貴重な天然資源であるといえそうです。

赤沼神社は、昭和の初期には沼の畔（あぜ）にあり、鉱山で働く人たちが管理してきました。寄木の青木正氏によれば、昭和42年に一度目、閉山後の昭和59年に二度目の遷宮（せんぐう）（移転）を経て現在地になったとのことです。創建（そうけん）年代は不明ですが、松尾鉱山の歴史と無縁ではないでしょう。ただ、土地の風流人（ふうりゅうじん）・畑浅左衛門（はたせんざえもん）が猟（さかのぼ）に出て、神秘の沼にたどり着き、魔の大波に襲われるという『赤沼伝説』などもあり、江戸期まで遡る可能性もうかがわせます。

（文・市文化財保護審議会委員　畑謙吉）

≪参考文献≫
松尾鉱山時報　（1951・松尾鉱業所）
松尾の文化財　（1980、83・松尾村教育委員会）
いわての自然・第26号　（1994・岩手県）
松尾「五色沼」の記録　（1998・岩手大学農学部土壌学教室）

■編集後記

今回、取材で初めて「先祓い」を見学しました。当日の天気は、あいにくの雨でしたが、踊り手にとっては関係がなかったようで、写真を撮りながらも勇壮な舞を楽しませてもらいました。紙面には掲載していませんが、兄川神社で見た太鼓の大きさとその音には驚かされました。（佐々木）

今月の表紙　泣いた子が勝ち！

白坂観音大祭の泣き・笑い相撲大会が、７月17日、白坂観音神社で開かれました。

当日は、約20人の子どもたちが参加。相撲が始まる前に泣き出す子や、それを見て笑う子など反応はさまざまでした。先に泣いて勝った子には、お菓子が渡され、その途端に泣き止む姿を見た来場者から笑いが起きていました。

※広報はちまんたい８月２日号（No.155）の印刷経費は１部41円、発行部数は10，400部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、市役所市長公室（☎・内線1213）まで。

この広報は森林認証された紙を使用しています。